

県内で発生している薬剤耐性トマト灰色かび病菌 に対する有効薬剤の選抜



トマトの葉に発生する灰色かび病

ジャストミート顆粒水和剤（2,000倍）

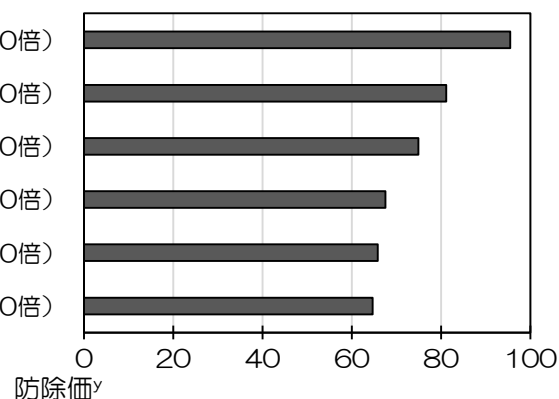
セイビーフロアブル20（1,000倍）

ピクシオドライフロアブル（2,000倍）

フルピカフロアブル（2,000倍）

ダコニール1000（1,000倍）

ベルクートフロアブル（2,000倍）



多剤耐性菌発生圃場^zにおける防除効果

^zアミスター20フロアブル、アフェットフロアブル、ロブラール水和剤、カンタスドライフロアブル及びチオファネートメチル（グッター水和剤の1成分）耐性菌を接種した圃場

^y防除率は発病率より求めた

開発のねらい

県内の夏秋トマト産地の一部では、複数の農薬に対して耐性を示し、農薬が効きにくくなっているトマト灰色かび病菌（以下、多剤耐性菌）が発生し、問題になっています。そこで、これらの多剤耐性菌による被害軽減に有効な薬剤を選抜しました。

新技術の概要

多剤耐性菌が発生している圃場においては、ジャストミート顆粒水和剤、セイビーフロアブル20、ピクシオドライフロアブル、フルピカフロアブル、ダコニール1000 及びベルクートフロアブルの6剤が葉での被害抑制に有効であることが分かりました。

活用場面

夏秋トマトの安定生産が可能となり、生産者の所得向上及び消費者への安全・安心な農産物の提供に大きく貢献できます。